

会 議 録

- 1 会議の名称 令和6年度第1回富士川町環境審議会
- 2 会議の時間 令和6年9月3日(火) 午後7時30分から午後9時34分まで
- 3 開催場所 富士川町役場 1階会議室
- 4 出席者数
 - (1) 町 長
 - (2) 委 員 9名(欠席者1名)
 - (3) 事務局 3名
 - (4) 支援業務受託者 3名
- 5 議題
 - (1) 富士川町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)改定について
 - (2) その他
- 6 会議資料の名称 別添のとおり
- 7 発言の内容
 - 1 開会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 町長あいさつ
 - 4 正副会長選出
 - 5 会長あいさつ
 - 6 町長からの諮問
 - 7 議事
 - (1) 富士川町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)改定について
※資料1及び資料3を基に事務局、支援業務受託者から説明

【委員】

今の説明でカーボンニュートラルを目指しているのはもちろん分かるのですが、資料をもう少し欲しいなというのが1つです。前計画を持っていますが、一体どの程度まで到達できたのかを活かすのかどうかという点と、それからあと1つはデータとして、町のデータがあまりにも少ないのではないかと思います。町の特徴を出

した計画ということですから、そういう現状のデータをもうちょっと欲しいと思います。前回の計画を読み直してみると、ほとんど進んでいないと思います。ただ実際に、ここまでやったもののデータがありますから、どこまで進んだのかということはやはり大切なことですので、そういうデータはちゃんと数字として欲しいです。

【事務局】

まずは、1点目は前回計画の検証というお話ですが、目標はほぼ達成しているという状況になっています。前回の計画では、2020年の排出量目標値が6万3070トンとなっていたのですが、2021年の排出量が約6万3200トンになっていますので、ほぼ達成しているという状況です。

【委員】

やはり、次に進むためには、なぜ達成できたのかという分析が必要だと思います。

【事務局】

進んだ理由としては、運営部門以外の削減が進んだというところがあります。逆に運輸部門のほうであまり数値が変わらないので、少し足を引っ張ってしまったという状況になっています。また、現状で既に予算措置されているところがありますが、運輸部門が上がっている要因があるので、電気自動車の購入補助金は現在も予算化されており、データに基づく対策として考えています。

あとは、町独自のデータという2点目のご指摘ですけれども、資料3で現状データ分析もまとめておりまして、町の降水量ですとか、土地利用ですとか、人口の推計などもまとめたデータはこちら資料3のほうにお示しさせていただいております。

【委員】

世界や日本全体の流れがEV車のほうに向いているという話があったのですが、私は必ずしもいいことだと思っておらず、EV車を製造する場合に、かなりの電力を必要としているということ。それから、日本には長年培った素晴らしい内燃機関の技術があって、その上でハイブリッド車という技術もあります。一説によると、諸外国で、もうそこは日本に追いつけないからEV車で巻き返そうとしたというところがあるそうです。EV車の場合は、燃料電池が非常に重いそうです。道路とか橋の傷みはその重量の積み重なりで傷んでいくということもあって、EV車を製造しているのは主に隣の大きな国というところもあって、国としての利益に必ずしもならないということと、環境については、世界全体としては非常に電力を使うということです。また、EV車を製造するための電気自体もどこで作っているかということも教えていただきたいです。

【事務局】

まず1点目の、世界的なEV車についての考え方ですけれども、ご指摘のとおり、EUのほうでも、これからも結構揺れ動いていくところかなというのが正直なところですが。ただ、まだ国の方針が追いついていないところで、国が出している方針の中では、公用車に限定しているのですけれども、自治体はEV車を導入してくださいとなっているので対応はするのですけれども、公用車を全てEV車にすることは充電設備の関係もあり難しいですから、一気にEV車に替えるのではなく、少しずつ進めていけばいいのではという話はしています。

あとEV車に充電するためのエネルギーという話ですけれども、富士川町でもEV車がありますけれど、電源の一部は太陽光を用いており、再エネから充電されています。あと電源全体の話としては、国の第7次エネルギー基本計画が今策定されておりまして、再生エネルギーを引き上げるとか、原発を動かすというような話も出ているようですので、再エネと原発を動かして、温室効果ガスの排出量を下げていくということになるかなと思いますので、結論を申し上げますと、EV車を充電する電源の構成というのは、CO2排出が低い形になるということです。

【委員】

ガソリン税が道路の修復等に使われますが、EV車の場合はガソリン税を払わないので、その辺も少し不公平である中、EV車を増やすことがいかがかという思いもあったり、あと大きな流れとすると、アメリカでトランプ氏が次の大統領になった場合に、EV車を排除するという方向性を出しているので、それにまた日本が流れていくのかなというところがあって、EV車の補助金というのは国の流れとすればやる方向になってしまうのかなと思うけれども、個人的にはあんまり進めたくないなと思っています。

【委員】

既に、気候変動の中で大きな災害がこれからどんどん押し寄せてくるというような恐怖感を持たなければいけないのかなと思っています。

私は1人の町民として、この町で何ができるのかという思いでここに来ています。そうすると、町民として1つずつどうすれば課題をクリアできるのかというのは、具体的なクリアすべきところを町民みんなが一緒になって努力しましょうみたいな目標を立てていきたい。そうしないと、今までもこういうことをやっているのだけれども、一体何ができたのだろうか。目標に向けて町民は何の努力をしたのかというところが全然見えてきてないのですよね。でも、みんなで声を合わせてこれをやりましょうというものがやはり町内の中では必要かなというふう思うのですけれども、

大きな問題を抱えていれば、それはそれで取り組まなければならないし、1人の住民として何ができるのかなというところも必要で、すごく大切なところだと思います。

例えば家庭の中でできることは何だろうか。町として今年度はみんなでこれを目標にしてやろうみたいな、何かそういうものがあるといいかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

【事務局】

それぞれの取組みが必要になるかと思しますので、そういった内容についても今日ご参加の皆様でご意見をいただきながら、それぞれの町民の方々の取組内容を計画書に書き込んでいければと思っておりますので、ご意見をいただければと思います。

【委員】

今までの取組みの概要を聞かせてほしいと思います。今話を聞いただけではよく分からなくて、どのような取組みをして、それに対して次の計画ではどうするのか。企業もISOとか色々やっていますので、ぜひその辺のPDCAを回すに当たっても、現状の考えを次回の会議時でよいのでよろしくをお願いします。

【事務局】

数値で追いかけるところは追いかけて、それ以外のところは取組み件数とかになるかと思うんですけれども、町民の方が地道に省エネルギーに対応してきたということはなかなか数字にしていくことが難しいところではあるのですけれども、これまで取組みをしてきたということは事実としてあるので、そういった点についてもまとめていくようにしていきたいと思います。

【委員】

逆にそういう評価はどういう根拠で評価してるのかなというところもあります。

【事務局】

前計画の概要という件は、取りまとめてご報告させていただきます。あとは資料3の内容になってしまうのですが、分析とまではいかないですけれども、21ページでどのような施策をやってきて、このような結果になりましたというところについては、すごく簡単ではありますが、内容については数値で報告するような形で進めさせてもらえばと思います。

【委員】

コンポストや太陽光発電システムに補助金を出したり、今まで長い時間を掛けて取

り組んできた。基本的なところでは、自分が毎日生活をしている中で出来ることで、それに近い補助制度をこれからどう維持していくか、どう拡充していくか、どういうものに対して増やしていくかという、そういうことが必要だと思う。それが何パーセントの効果を得たかという、そのものを数値化すること自体は非常に難しく、あまり意味があることだと思っていない。難し過ぎて無意味なものと感じている。

だから、今までこれだけのことをやってきて、それをこれから続けるのかどうかとか、例えばゴミの分別が、当初は年間どのくらいの金額、処理量であったという数値はあると思います。それに対して、費用をどれくらい掛けたとか、ゴミ処理に対する費用が5000万円だったものが4000万円になったとか、リサイクル量がどのくらいであったかということを押さえていくことができ、そうすると目標を設定することもある程度、来年はもっとリサイクル率をもっと上げようとか、そういう分かりやすいところで目標設定していくことはすごく大事じゃないか。

物を大事にするとか、最後まで使い切るとか、それがまた次のエネルギーに繋がっていくとかいうようなことを考えていくということが大事ではないかなと思います。

【事務局】

富士川町では合併前の旧増穂町、旧鰯沢町時代から新しいものに対して普及・啓発のため補助を行い、環境に良いものについての取組みはかなり行なってきたと思います。コンポストもそうですし、電気式の生ゴミ処理機やハイブリッド車の購入補助、太陽熱温水器の補助をしていた時期もあります。太陽光発電システム補助については、普及啓発という意味での目標は達成したかもしれないですけども、引き続き取り組んでいます。EV車の購入補助金も今年度から開始をしています。

このような補助制度については、実績と効果を出していると思います。また環境衛生委員長のご協力をいただきながら、各地域のリサイクルステーションを中心にかなり県内でも先進的にゴミの減量化に取り組んできたと自負しております。

また、地域や町のイベントでもリサイクル食器を積極的に活用させていただいて、イベント等から出るゴミの削減にも努めてきておりますので、かなり先進的に取り組んできたと思っています。それが温室効果ガスの削減にも寄与してきているのではないかと考えていますが、さらにそれを進めていくとなると、生ゴミの処理とか農業から出る植木の剪定枝とか雑草等で、野焼きをしているものを回収してリサイクルするなど、なかなか手がつけられない難しいものが残ってしまってる中で、町としてそこをどうしていくかというのは、かなり難しい課題でもありますが、検討していきたいと思っています。

【委員】

例えばコンポストに1リットルの生ごみを入れると、500グラムの土を混ぜればい

いですよとか、ゴミを分別していくとこういうメリットがありますよということを、具体的に数値化して宣伝して、伝えていくことが大切である。住んでいる人の世代、年代も変わってくるので、いつもそれを繰り返しお知らせしていくことが行政がやらなくてはならない課題である。

もう1つ言いたいのは、国が色々な補助金を出しているが、その根拠がよく分からない。やはり、政策的に根拠があって、それに対していくらお金を出しますよということさえはっきりしていればよい。

補助金を増やしていくことが大事だと思うが、上手く進めば途中で終わりにするというのを繰り返していくことが大事であると思う。

【事務局】

取組み件数で見たほうがいいのかというお話があったかと思うのですがけれども、私としてもどちらかというところ、取組みの件数で見たほうが、日常的な取組みという点では追いかけてやすいのかと思っておりましたので、そういう計画にできればいいかと思っております。

あとは根拠のというお話ですけれども、やはり数値の内容をとったところで、お話されてたように、現状で国が求める内容も入ってきてしまうので、やはり自治体なので、そこに合わせて計画を作っていくという側面はあるのですけれども、それに向けて根拠をしっかりと整理していくところも必要だなと思っておりますので、そういったところでさらに説明できればいいかと思っております。

【委員】

先ほどゴミの問題が少し出ましたけれども、やはり、それぞれの町民として何ができるかということ、もっと身近に自分たちの日常の中から何ができるだろうかということがすごく大切なところだと思います。ゴミの現状で今1番問題になっているのは、プラスチックゴミです。プラスチックゴミをどうやって減量したらいいかということ、環境省でも大きく取り組んでいると思うのですが、町内の中で環境活動をやっている人たちが色々な取り組みをやっています。

緑のカーテンで夏は涼しくしようみたいな、自分たちで身近にできること、あるいはプラスチックゴミを減らそうということで、イベントではプラスチックの容器を使わないで、これをリユースの食器にしようということは私たちがやっているのですが、そういう町民がやっているところから、ぜひこれを町民運動にしませんかみたいな、緑のカーテンにしても呼びかければ、それをしてくれる人たちはいるので、町民みんながそれに関わりましょうというように、やりたい人がやればいいんだよではなく、せっかくこのように、各種団体の代表者が集まってきているのだから、私はこれをもっと広く町民運動にできるようなものもぜひやっていくとい

うことが必要と感じます。生ゴミの問題も先ほどから出てはいますが、今何かゴミを皆さんどうしてますかと言ったときに、とてもこの町でそれを公にこのぐらいと自慢して言えるだけのものがないと思います。なので、富士川町はこれが自慢なんだというものをいくつか取り出して、町民運動としてやっていけばいいのではないかと思います。

【事務局】

町民の皆さまの中で比較的取組みやすい内容としては、やはり廃棄物といった分野になってくると思いますので、やはりそういった分野ですと、町民運動という点はそういった分野に関わりやすいのではないかと考えておりました。

あと、どのように旗を振っていくとかという話もありますけれども、まさに国の方針であるところと、あとは富士川町の中で特色が出るようなところについては、町と話をさせていただいて、町民運動に押し上げられるような、おそらく既存の政策とか既存の取組みなどを拡大していくことになるのかと思うのですけれども、そういった内容でできればいいのかなと考えております。

【委員】

やはり、どこを出発点にするのかということだと思います。前計画にもこういうことをやったらいいというのは、本当にたくさん載っています。やることは大体分かっているので、これについてどうするのか。どこを出発点にするのかというのが策定のポイントになります。

それから、今後の進め方ですけど、家庭とか町民を中心にという案もあるのですが、ここでは企業とかを区別して分類しています。町民ということにあまりターゲットを絞らなくてもいいかなと思います。意見を出し合って、それをどのように分類・整理して絞っていくのかということも聞かせてください。

【事務局】

現状の計画も色々書かれていることは確認していますが、この計画から皆さま色々活動されていて、もしかすると新しい取組みですとか、実はやってみただけでもあまりうまくいなくてとか、それから逆に言うところということがうまくいったみたいなどころがありました。

あとは、どのように絞り込んでいくのかということについては、意見をいただいた内容について、一旦は一律で見させていただき、今後進めていくべきポイントなどは審議会の場で議論させていただきながら、案を基に絞り込めればいいのかと思います。

【委員】

エコの活動を地道に20年間、一切ここに書いていないのが残念ですが、町民としてボランティアで本当に色々やってみました。

対象の分け方は、1つはやはり啓蒙の部分、知識のほうの気づき、誰でもできる学習的なものです。そういう体験という部分と、それからもう1つは設備、仕組みの部分です。そういうふうに分けることができたと思っています。なので、分け方によって進み方が違ってきますので、その辺りを見越して進めてほしいです。

【事務局】

行動したい事の分けについては、先ほどの行政、住民、事業者の3つで考えているのですが、もう1つご指摘のあった政策の設備などの取組みについては、既存の取組みをまず整理していますので、その中で町と打ち合わせをさせていただいて、そういうところの整理も同時に進めておりました。

ですので、ある程度ハード系のものからソフト系なものまで一度整理をしておりますので、一度意見をいただいて、事務局のほうで取りまとめます。その中でお話しさせていただいたほうがいいかなと思います。

※質疑応答終了後、資料2に基づき、ワークショップ形式にて委員相互による意見交換

(2) その他

今後のスケジュールについて事務局から説明。次回開催を11月下旬頃に予定。

8 閉会